



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.106

教員は学習者といつ向き合うか —「教育原理」は役に立つ?—



保健福祉学部 教養教育部 教授 小西 二郎

私は主に教員養成系の科目を担当しています。それらの授業で取り上げる事柄の一つとして「学習者に対する教員の姿勢」があります。今回は、私の体験を導きの糸にしてこの点について述べることに致します。

日々の講義の中で学生の視線がいつも集まる時があります。そういう時はたいてい、学生のまなざしや姿勢だけでなく、その場全体がいつもと違うものを感じられます。私にとって

は至福の瞬間です。どのような場面であらうかということ、学生のミニレポートや発言から浮かび上がった課題を取り上げている場面です。とはいっても、こうした場面では必ず「至福の瞬間」が現われる、というわけではありません。それは私に至らないからです。しかし

し、それだけではないようです。学生の皆さんはいろんな意味で多様です。小中高校の先生方がおっしゃるように、授業は教員とそうした学習者とで作りがちなものであり、かつ「授業は生き物」です。そのことも大きく関係しています。

「その場全体がいつもと違うものを感じる」と述べました。それはこんな感じですが——「学生が考え込んでいる『現場』に教員である自分も立っている。課題をとらえて、考え、対話している。言葉を紡ぎ合っている。終始、学生が提示あるいは示唆した課題を自らの課題として受けとめようとしながら」。それは多分にフィクションと言いつつ、しかしその「現場」で私は、学生と「課題を共有し、ともに探究しようとする姿勢」をとって

います。思えば、自分が児童・生徒・学生であった頃の印象深い授業場面では、お世話になった先生方もまた同様の姿勢をとっていました。こうした場面では、ともに課題を見て、考え、対話する点では教員と学習者は対等です。とはいえず、教員は学習者と同じであってはならないはず。では、課題を共有し、ともに考え対話している点では学習者と対等でありながら、教員として対峙するのはどうということなのでしょう。教員の職務・責任・専門性の基軸はここにあると私は考えています。

ところで、私にとって「学習者と課題を共有し、ともに探究しようとする姿勢」は教育を行なう上での大切な手がかりの一つです。教育哲学・思想専攻の西村拓

生氏がいうように、そうした手がかりは私なりの哲学・思想と違ってよいと考えます。西村氏は、その人なりの哲学・思想と哲学者・思想家の主張との「語り合い」の可能性についても述べています。私の場合もそう、上述の私なりの哲学・思想は、ブラジルの思想家パウロ・フレイレの主張との「対話」があったからこそその輪郭があらわになりました。哲学・思想にはこうした「効用」がある——教育の哲学・思想等について検討する「教育原理」(教員養成系科目の一つ)は役に立つと考えるゆえんの一つです。



参考文献
西村拓生(2020)「教育の思想を読むこと／学ぶことの意味」、山内清郎他編著「新しい教職教育講座教職教育編①教育原理」。ミネルヴァ書房。
フレイレ、パウロ(小沢勇作他訳)(1979)「被抑圧者の教育学」。亜紀書房(1972年出版の英語版の翻訳)

西村拓生(2020)「教育の思想を読むこと／学ぶことの意味」、山内清郎他編著「新しい教職教育講座教職教育編①教育原理」。ミネルヴァ書房。
フレイレ、パウロ(小沢勇作他訳)(1979)「被抑圧者の教育学」。亜紀書房(1972年出版の英語版の翻訳)

大学図書館にはこんな本があります ～「知」への誘い～からもう1歩～

今回原稿を執筆した小西先生が取り上げていた本を中心にご紹介します。
『ケアと人間 心理・教育・宗教』講座ケア にしむらたかし 新たな人間—社会像に向けて第3巻、西平 直/編著 ミネルヴァ書房
→生きて行く上で、人はどれだけ人をケアするのか。また、ケアされるのか。
『ケア』の思想の底流を探る。
『伝達か対話か 関係変革の教育学』 あまみみくるくすはらあゆみ A.A.L.A教育・文化叢書6、
パウロ・フレイレ著 里見 実、楠原 彰、松垣 良子訳、亜紀書房
→教育者の役割は、「知識を詰めこむ」ことではなく、教師と生徒間の対話的な関係を通して、両方が正しいものの考え方を身に付けようとするとして
『<期待という病>はいかにして不幸を招くのか ルソー 「エミール」を読み直す」 さかぐさ じょうじ 坂倉 裕治著、現代書館
→「エミール」はルソーの壮大な実験装置であった。子どもたちが自由にふるまうこととはどういうことかを読み解く。

大学図書館へようこそ!

7月になり、めっきり夏らしくなってきました。コロナ陽性者も減りつつあり、市内外でも徐々に3年ぶりのイベントが開催されるようになってきました。今年は学内者のみですが、大学祭も開催されるようになります。大学図書館も通常の開館状態に戻ります。これからの時期、学習に大学図書館をご利用ください。

【7月の開館について】

月曜から土曜日まで、9時から21時までの開館です。
日曜日・祝日は休館です。



◆問い合わせ
名寄市立大学図書館

☎01654@7671(直通)
✉ncu_library@nayoro.ac.jp